

令和3年度 第76回冬休み良書推薦運動

読書感想文コンクール

主催
協賛
後援

岩手県良書推進協議会
岩手県学校生活協同組合
岩手県小学校校長会
岩手県学校図書館協議会
岩手県PTA連合会

目次

一 祝辞

二 入賞者名簿

三 入賞者作品

四 審査を終えて

五 応募者名簿

審査員

大石善弘先生	近藤澄江先生	畠山明美先生	藤村由美先生	田代五月先生	大渕奈実先生	永井臣之介先生	杉浦美香子先生	谷藤里佳先生
--------	--------	--------	--------	--------	--------	---------	---------	--------

読書を通じて心を耕しましょう

一般社団法人岩手県PTA連合会 会長 岩 館 智 子

第七十六回冬休み良書推薦運動読書感想文コンクールに入賞された皆さん、おめでとうございます。

コンクールの表彰式は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止となりましたが、皆さんの作品やお名前がこの冊子にまとめられ、県内に配布されます。とても晴れがましく、喜ばしいことです。多くの人の目に触れるだけでなく、皆さん自身も同じ年頃の小学生が書き上げた作品から学ぶところが大きいにあると思います。同じ本を読んでも、心が動かされたところが違うかもしれません。あまり関心がなかった本の読書感想文を読んで、目のつけどころに気づかされるかもしれません。いろいろな本に触れ、様々な感想をもつことよって、どんどん読書体験を積んでいってほしいと思います。

読書には「心を耕す」働きがあると思います。お花を育てるのも、農作物を育てるのも、まずは土を耕さなければなりません。でも、土を耕してすぐ花は咲きませんし、実もなりません。とても時間がかかります。読書も同じです。すぐに効果が期待できるものではありません。しかし、豊かな読書体験を積むことで、じつくりゆつくり心は耕されていきます。それは大人になってからも続くことで

しょう。決してテストの点数では測ることのできない、人間としての魅力が身についてくるはずです。本をたくさん読むことで、すてきな大人になることでしょう。

でも、どんな本を読んだらいいのか迷う人もいるかもしれません。図書館や書店に行けば、棚いっぱい本が並んでいます。そんな時、とても参考になるのが、推薦図書です。今回も、岩手県良書推進協議会の「冬の良書推せん運動」で、学年に応じて四十二冊の本が推薦されています。いずれは自分で本を選んでいければ良いと思いますが、このようなリストを参考にするのも一つの方法です。

今の時代、パソコンやスマホで知りたい情報がすぐに手に入りませんが、じつくり自分の頭で考え、想像力を豊かにしてくれるのは、やはり読書です。皆さんが、これからたくさんの本との良い出会いをすることを願っています。

令和3年度 第76回

冬休み良書推薦運動読書感想文コンクール

入賞者名簿

「」は図書名

〈最優秀賞〉

生きものたちとなかよくくらすために

『ひとつがつつたどうぶつの道』

盛岡市立永井小学校 一年 土田朝日

どこでもとどく、まほうのポスト『まほうのゆうびんポスト』

花巻市立宮野目小学校 二年 米澤温馬

一歩ふみだしてみる 『どっちでもいい子』

盛岡市立高松小学校 三年 菊地姫華

どっちでもいいの意味と、人との繋がり 『どっちでもいい子』

盛岡市立仙北小学校 四年 宮城廉愛

自分の人生を生きるとは 『ぼくらは森で生まれかわった』

宮古市立田老第一小学校 五年 山本謙志郎

「ぼくらは森で生まれかわった」を読んで

『ぼくらは森で生まれかわった』

遠野市立鱒沢小学校 六年 山蔭咲岐

〈岩手県小学校長会長賞〉

みんなで生きるために 『ひとつがつつたどうぶつの道』

宮古市立山口小学校 二年 箱石好南

文字で表すって、むずかしい 『先生、感想文、書けません！』

軽米町立晴山小学校 三年 古館陽和

災害と共に生きるために 『マンガでわかる災害の日本史』

宮古市立田老第一小学校 五年 山内颯我

〈岩手県学校図書館協議会長賞〉

しあわせな気持ち 『まほうのゆうびんポスト』

北上市立黒沢尻東小学校 一年 青木創志朗

なりたいたわしになるために 『どっちでもいい子』

洋野町立中野小学校 四年 粒來明莉

トモが教えてくれたこと 『ライラックのワンピース』

宮古市立田老第一小学校 五年 山崎夢羽

〈岩手県PTA連合会長賞〉

やさしさは広がつていくんだね

『ちいさなやたいのカステラやさん』

宮古市立田老第一小学校 二年 千葉 美 姫

新しい自分になるために

『どっちでもいい子』

宮古市立田老第一小学校 三年 澤 口 紗 幸

殺処分ゼロへの道

『北里大学獣医学部犬部！』

久慈市立宇部小学校 五年 滝 澤 啓 光

〈優秀賞〉

大せつな人

『つくしちゃんとおねえちゃん』

北上市立黒沢尻北小学校 一年 青 沼 恵 大

ひとがつくった「どうぶつの道」を読んで

『ひとがつくったどうぶつの道』

一戸町立奥中山小学校 二年 猪 又 結 月

わたしの夢は飼育員

『動物の仕事をするには？』

宮古市立田老第一小学校 三年 佐々木 柚 月

ずっとわすれない

『友だちは図書館のゆうれい』

盛岡市立桜城小学校 四年 盛 永 彩 葉

三人をつなぐリーナの魔法

『わたしたちの物語のつづき』

宮古市立田老第一小学校 五年 吉 水 詩 織

前を向いて生きるために

『キャンドル』

宮古市立山口小学校 六年 箱 石 香 乃

〈入選〉

ビッグホーンとぼくのお父さん

『恐竜トリケラトプスとティラノクイーン』

滝沢市立滝沢第二小学校 一年 中村 空 煌

見えない 気もちは

『つくしちゃんとおねえちゃん』

宮古市立田老第一小学校 二年 長 洞 なずな

ぼくも感想文、書けません！

『先生、感想文、書けません！』

盛岡市立城南小学校 三年 桐 田 景 護

感想文、時々きらい、だけど好き？

『先生、感想文、書けません！』

釜石市立鶴住居小学校 四年 久 慈 廣 多

岩手の恵みが生む力

『ぼくらは森で生まれかわった』

宮古市立田老第一小学校 五年 石 田 心 乃

大切にしたい親子の絆

『あんなに あんなに』

盛岡市立土淵小学校 六年 吉 田 航

〈学校賞〉

宮古市立田老第一小学校

〈学級賞〉

宮古市立田老第一小学校

5年

〈佳作〉

みんなにとどけ

『まほうのゆうびんポスト』

盛岡市立高松小学校

一年 菊地大翔

『つくしちゃんとおねえちゃん』をよんで

『つくしちゃんとおねえちゃん』

盛岡市立桜城小学校

一年 鈴木晴華

『まほうのゆうびんポスト』を読んで

『まほうのゆうびんポスト』

盛岡市立仙北小学校

二年 大村優真

どうぶつたちの道

『ひとがつくったどうぶつ道の道』

盛岡市立向中野小学校

二年 堀川七愛

たった一つの感想文

『先生、感想文、書けません！』

盛岡市立杜陵小学校

三年 佐々木杏

わたしもへんだった！？

『みんなふつうで、みんなへん。』

宮古市立田老第一小学校

四年 田村幸生

犬部の宝物／人も、動物も

『北里大学獣医学部犬部！』

宮古市立田老第一小学校

五年 熊岡大翔

「楽」も「怖」も

『本当に危ないスマホの話』

宮古市立田老第一小学校

五年 畠山芽依

生きものたちとなかよくくらすために

盛岡市立永井小学校 一年

土田 あさ日

「森は生きてるゆめみてる、森はみんなのものだから。」
これは、ぼくがほいくえんの年ちょうのとき、げきの中
でうたったうたのかしです。この本をよみおわたあと、
このことばをおもい出しました。げきの中でのぼくのやく
は、森にどうろや町をつくろうとする人げんでした。人げ
んが森に下見にいったとき、森にすむ生きものたちは大あ
わて。けつきよく、さいごに人げんは、森のよさに気づい
て、森をこわすのをやめました。ぼくは、人げんが森をす
きにこわして、生きものすむところをうばってはいけな
いとおもいました。

げきの中だけではなく、いま日本中で、すむところをう
ばわれたどうぶつたちのこうつうじこがたくさんおこって
いることを、この本をよんでしりました。どうぶつは、か
ぞくにあいにいたり、たべるばしょや子どもをそだてる
ばしょにいたりしたりするためなど、いろいろなりゆうで、
どうろをわたっているそうです。ひかれてしまったどうぶ
つも、みちがなくなつてこまっているどうぶつも、とても
かわいそうです。でも、どうぶつのことをかんがえてあげ

るやさしい人もいて、どうぶつのあるくみちもつくられて
いるということをして、すこしあんしんしました。これ
から、もつとこういうやさしいみちがふえていつてほしい
です。ただどうぶつのみちをふやしていくだけではなく、
本とうにひつようなのかをよくかんがえて、どうろやどう
ぶつのみちをつくっていくことが大せつだとおもいます。

ぼくは、しぜんの生きものたちとなかよくくらすために、
しぜんのいいところや、生きもののかをたくさんしりた
いです。気がつかないうちに、生きものたちをこまらせて
しまうのはいやだからです。森は生きものみんなのものだ
とわすれないでいたいです。

(図書名『ひとがつくったどうぶつの道』)

〈講評〉

一文目から目をうばわれました。「何の言葉かな」と読む側は考
えながら読み進められます。次の文で、あさ日さんの思い出の歌
詞だと分かりますね。二段落目では、「げきの中だけではなく」に
続けて「あさ日さんの思いや考え」がバランスよく書かれています。
またその思いが後半にかけて強まっていることが、多様な表現か
ら伝わってきました。この本を読んだからこそ、経験を思い出し、
考えを広げ、深めることができたのだと思います。

二年 最優秀賞

どこでもとどく、まほうのポスト

花巻市立宮野目小学校 二年

米澤 温馬

うわあ、ほんもののおばけに出した手紙もとどいたんだ。ほくは、転校していったまさきくんやアフリカのキリンたちに手紙がとどいたのは、あまりおどろきませんでした。でも、本当にいるのか分からないおばけが、けんとかんのおまくらもとに来た時は、とてもおどろきました。

けんとかんが見つけた、しましまのようなまほうのポスト。下の方に小さな文字で『どこでも』と書いてあって、住所が書いてなくても、切手をはってなくても、手紙を入れたらとどくのです。

けんとかんは、なやんで、天国のおばあちゃんに手紙を出しました。おばあちゃんが大切にしていたきんもくせいの木のをえだをおってしまったことをずっとあやまりたいと思っていたからです。おこられるのがいやで、おばあちゃんの家でかっていた犬のごんたのせいにしてしまったのです。ほくは、けんとかんの気もちが分かります。ほくもお父さんとお母さんにおこられるのがいやで、いたずらしたのを弟のせいにしてしまったことがあるからです。おこられている弟を見ながら、心の中で（ごめんね。）とあやまっ

ていたけど、しばらく心がズキズキしました。おばあちゃんからへんじは来なかったけど、かれたと思っていたきんもくせいの木に、三年ぶりで花がさいたから、けんとかんの気もちがとどいたんだ。ほくもうれしくなりました。

ほくがまほうのポストを見つけたら、せん台のおばあちゃんに手紙を出したいです。おばあちゃんは、ほくがようち園さいごのうんどう会の日、なくなりました。うんどう会のビデオを楽しみにしていたけど、空の上からほくのがんばっているところを見てくれたかな。小学校に入って、べんきようやうんどうをがんばっていること、家ぞくみんな元氣なことを知らせたいです。

〔図書名『まほうのゆうびんポスト』〕

〈講評〉

温馬さんの文章は、書き出しから驚かされました。心の声から始めたのですね。三段落では最も心に残った出来事と自分の思いが同じ分量で書いてあるので、温馬さんの心のゆらぎまでよく伝わってきました。本の中の出来事にまんべんなくふれつつ、一番大きな出来事に似た自分の思い出や考えを多く述べている構成のよさも感じました。心をこめて書いた文章です。せん台のおばあちゃんにもきくと届いていると思いますよ。

一歩ふみだしてみる

盛岡市立高松小学校 三年

菊地 姫華

読み始めた時、自分の気持ちがいなくなつた。前にけいけんしたことを思い出したからだ。

主人公の「はる」は、自分の考えを表に出せなくて、だれかに「どっちがいい？」と聞かれても、

「どっちでもいい。」

と、つい、言ってしまう。まわりの人たちからは、

「やさしいね。まよっちゃうんだね。」

と言われていたが、クラスがえの時に、同級生たちが、

「いてもいなくても、どっちでもいい子でしょ。」

と言っているのが聞こえ、ショックを受けてしまう。「どっちでもいい。」といつも言ってしまうのは、私にも分かる。じつさいに、私も、つい、言ってしまう時がある。決して、「どうだった方がいい。」わけではない。考えすぎてしまい、分からなくなつてしまふのだ。または、どちらも同じくらい好きだったり、よかつたりして自分では決められなくなつてしまふのだ。それでも決めなければならぬ時、私は、ほかの方法を考えたり、周りの人と話し合つて決めたりしてきたと思う。

はるは、周りの子を見て、「自分とは何かちがうな。」と気づき、今とはべつな自分になりたいと思つた。自分からダンスを習いたいと言ひ、ヒップホップが好きになつていった。夢中になれるものを見つけて、少しずつかわつていったと思う。学校では、あいかわらず、いてもいなくてもいいと思われているかもしれないが、はるは、

あまり気にならなくなつた。毎日、ダンスの練習をしておどれるようになって、自信がついたのだと思う。

私は今、本格的に水泳を学びたいと考えている。一年生のころ、母に水泳を習うことをすすめられたが、どっちでもいいと言つてしまつた。ためしに二カ月だけ通つたが、私は、はつきりと習いたいと、その時、思わなかつたのでやめてしまつた。しかし、今は、五十メートルや百メートルのきよりをクロールや平泳ぎで泳げるようになりたいと思う。今年、体育で水泳に取り組み、しつかり泳げるようになりたいと強く思つたからだ。

「どっちでもいい。」と言つていたはるも、自分でやりたいことを見つけ、ちゃんと決めることができた。そして、自分の気持ちを言葉に出して、家族や友だちにおうえんしてもらえた。一歩ふみ出してみることで、人はかわることができると思う。「どっちでもいい。」で終わらせずに、自分の気持ちを言えるようにならないといけないと、私も気づいた。冬休みが終わつたら、水泳を習いたいと両親に伝えたい。まよふことがあつても、必ず自分の考えをはつきり決めて、それをよくひょうにしっかりとがんばつていきたい。「どっちでもいい」という言葉は、ぜつたいに使わない。

(図書名)「どっちでもいい子」

〈講評〉

姫華さんの強い決意に感動させられました。姫華さんは、どうしてこのような決意をもつことができたのでしょうか。そう考へて文章を読み返してみると、姫華さんが、場面ごとの主人公「はる」の気持ちを、自分の経験と重ねながら、想像ゆたかに読んでいることが分かりました。読み終わった後、「はる」と一緒に自分も成長していったのですね。自分の心にわき上がった強い気持ちを、素晴らしい文章で書きまとめていました。

どっちでもいいの意味と、人との繋がりに

盛岡市立仙北小学校 四年

宮城 廉 愛

「どっちでもいい。」この言葉は、私と主人公のはるちゃんの口ぐせです。

はるちゃんは、小学四年生の内気な性格の女の子です。クラス替えをしたばかりの時に、「いてもいなくても、どっちでもいい子」と言われてしまい、傷つき余計に自信をなくしてしまいます。でも、勉強ができて、いつも堂々としている玲奈ちゃんと友達になったことやクラスの女王様のような杏ちゃんと同じダンススクールに通うようになってけんかしたことを通して、自分の意見を少しづつ言えるようになっていきます。このお話を読んでいく中で深く考えたことが二つあります。

一つ目は、どっちでもいいという言葉についてです。この言葉は、人に誤解を与えてしまう少し怖い言葉だと思いました。どっちでもいいと言うと、どうでもいい、いいかげんだと思われてしまう可能性があります。本当は、よく考えて口にした言葉だったり、人に合わせられる優しさを含んでいたりと、考えすぎて決められなくなったりにしているかもしれないに、だから、どっちでもいいという言葉を使う時は、聞いている相手に自分の想いが伝わるように理由をつけて言うことが、大切だと気づきました。

二つ目は、はるちゃんのことを理解してアドバイスをしたり仲良くしてくれたりする人と意地悪してしまう人の違いについてです。玲奈ちゃんは、はるちゃんがグループに入れなかった時、自分のグループに誘ったり、はるちゃんの直した方がいいことを伝えたり

しました。それは、人に偏見を持たずに、誰とでも真つすぐに関わることのできる玲奈ちゃんのかっこよさだと思いました。私は、クラスで一人である子に進んで声をかけようとは思っていませんでした。でも玲奈ちゃんを見習ってたくさんの人と関わり世界を広げていきたいと思いました。そうすることが、自分にとっても困っている人にとっても嬉しい繋がりになっていくと思つたからです。

杏ちゃんは、スタイルもいいし学年一かっこいいと言われている人気者です。だけど、ダンススクールのセンターをはるちゃんにとられた時からはるちゃんに対する態度が目に見えてきつくなりました。はるちゃんをだまして遅刻させて悲しませることもありました。その時、杏ちゃんとはるちゃんがそれぞれの思いを伝え合ったことで二人の距離が縮まりました。かげ口を言うのではなく、相手とぶつかり合うことでみんないろんな気持ちの中にいるということに気づくことができる第一歩を踏み出せるのだと思いました。

どっちでもいいは、はるちゃんを目立たなくする言葉でした。この本を読んで、自分の意見をしっかりと伝えることで、人からの信頼を得ることができると学びました。人との違いを受け入れて意見を言ったり、伝え合ったりできるかっこいい人になっていきたいです。

(図書名)「どっちでもいい子」

〈講評〉

廉愛さんの文章で、まず、感心させられたのは、二段落目の「どんなお話か(あらすじ)のまとめ方です。長いお話をこのようにすっきりまとめることができるのは、廉愛さんが日ごろから文章を読んだり書いたりすることを頑張っているからなのだろうと感じました。日ごろから言葉を大切にしている廉愛さんだからこそ、この本を通して、さらに、言葉で伝える事の大切さや人との繋がりの大切さについて考えを深めることができたのですね。

自分の人生を生きるとは

宮古市立田老第一小学校 五年

山本 謙志郎

ぼくは、自分の人生をちゃんと生きる——二人の物語を読み終えた時、ぼくの心に響いた言葉。これは、順矢の過去を知り、そして自分を取り囲む人達が変わっていくことを感じ、改めて自分自身について考えた時、真の心に浮かんだ言葉だ。

芸能人の新藤順矢は、クラスからのいじめ、そしてネット民の中傷から逃げるようにして羽野に来る。しかし、自分が芸能人であることがばれそうになったら、真の前から消えてしまった。それは、順矢が自分の人生を生きているのではなく、芸能人である新藤順矢を大きく引きずっている証拠だと思う。

一方の真は、順矢が芸能人だなんて知らなかった。だから、なんの先入観もなく、都会から来た同級生として接することができた。真は自然がいっぱいである自分の故郷を、とても自慢に思っているし、とても愛しているとはくは思った。それは、河童森のみだらさんへ、毎日忘れることなくお供えをしているところに感じる。死んでしまったじいちゃんの代わりにやっているといるという。真は長い間、じいちゃんと一緒にやってきたことだろうから、単なる習慣なのかもしれない。でも、そういうことが当たり前になる中で、その土地の歴史や言い伝えを聞いてきたように思う。そして、じいちゃんが亡くなったからといって、それを絶やすことなく続けられるのは、きつとじいちゃんへの思いがあり、この土地への愛情があるからだと思う。そうやって知らずに積み上げた思いは、都会育ちの順矢に田舎自慢をする形で発揮されていたと思う。ぼくなら都会の方が最

先端だと思うから、都会人にふるさと自慢はなかなかできない。

真の案内をもとに、順矢は河童森の自然に触れ、傷ついた心は癒えていった。よく森林浴は心の疲れを癒すと聞く。昼は木登りやカブト、クワガタとりをし、夜には河童森から吹く風を感じながら蚊帳で眠る。心が疲れきっていた順矢には必要なことだったと思う。他にも、真の存在は順矢の心の治療には大切な役割を果たしたと思う。二人で過ごした時間は、順矢に友達と向き合う気持ちと人を信頼する心を取り戻させた。真は普通の友達と同じように順矢と話したりけんかしたりした。きつと順矢は順となつてから、人間関係が大きく変わり、「新藤順の人生」になつてしまったのだろう。そして、真との関わりは順矢が本心に望んでいたことであり「自分の人生だ」と感じる心を取り戻させたのだろう。

「ぼくは、自分の人生をちゃんと生きる」改めてぼくの胸にこの言葉が響く。ぼくは二人に負けない生き方が出来ているだろうか。ぼくはぼくなり毎日、がんばっている。学校の勉強も、友達との遊びも。あの言葉を常に忘れることなく、どんなことにも全力でやれるなら、真と順矢に自慢できるようなちゃんとした生き方ができると信じている。

〔図書名〕ぼくらは森で生まれかわった

〈講評〉

題名が、感想文全体をつらぬくテーマのような役目をしています。本文の一行目に「自分の人生をちゃんと生きる」と書いています。そして、感想文の最終段落で「自分の人生をちゃんと生きる」と繰り返しています。では、繰り返される「ちゃんと」とは、どんなことなのか、と読み進めると、最終の文に「どんなことにも全力で自慢できるような」と考えを見事にまとめています。最終に至るまでには、「〜と思う。」「〜と思う。」と自分の考えをもち、主張があります。素晴らしい文章の組み立て方でした。

「ぼくらは森で生まれかわった」を読んで

遠野市立鱒沢小学校 六年

山 蔭 咲 岐

秘密。きつとだれでも一つはもっていると思う。自分の秘密を友達に打ち明けるのはとても勇気がいる。言いたければ、友達は受け入れてくれるかな。言いたくないけれど、言った方がいいのかな。私は二つの気持ちで悩んでしまうことがある。この本は、そんな自分の気持ちと向き合うきっかけをつくってくれた一冊となった。

いなかに住んでいる真は、夏休みに毎日河童明神の神様にキユウリをお供えしている。そんなある日、真は河童明神で都会からやって来た順矢と出会う。この本は、真と順矢がいっしょに過ごした夏休みのお話である。

私が一番印象に残っている場面は、お祭りでは順矢の正体を真が知ってしまったところだ。実は順矢は有名なはい優だったのだが、そのことを真には秘密にして接していたのである。真はその真実を直接順矢から聞いたわけではなく、友達の会話からたまたま知るこ
とになってしまったのだ。

もし、私が真だったたら、その事実を知ってとにかくおどろくと思う。順矢のことを単純に「すごいな。」と感心したと思う。でもなぜ順矢は真に本当のことを自分からは打ち明けなかったのだろう。もしかしたら、言っていないのか、言ってはダメなのか自分では判断できなくなっていたり、真にさらわれたくないという思いがあったりしたのかもしれない。

私だったたら、どんな人になら自分の秘密を言うことができるだろう。私の話を真げんに聞いてくれて、信じてくれる人。そんな友達

にだったたら秘密を打ち明けられるし、もしその友達が順矢のようになやみを抱えていても、「なんで言ってくれなかったの？ひどいよ。」とはならないと思う。何かきつと理由があったんだろうなと、相手の気持ちを思いやることもできるような気がする。

真と順矢は、一時は気まづくなってしまうけれど、二人の友達
はこれからもずっとつながっているし、これをきっかけにより仲良くなる
ことができるのではないだろうか。

「お前、勇気あるか。」

このお話の中でたびたび出てくる、かっちゃんの言葉だ。勇気ってどんな勇気だろう。自分のトラウマになっていることに、自分からまたちよう戦する勇気。だれも受け入れてくれなかった話を、自分から打ち明ける勇気そして、新たな一歩を踏み出して自分から進んでいく勇気。私はこの本を読んで、そんなたくさんの勇気を、真や順矢から教えてもらうことができた。

私は四月から中学生になる。今は四人しか同級生がいなくて、中学校では同級生が増えていく。私はこれから先、きつとたくさん
の人とかかわっていくことになる。私は友達を信じ、友達からも信じてもらえ、おたがいの秘密を知っても、強くより仲良く付き合っ
ていけるような人を目指していきたい。

(図書名「ぼくらは森で生まれかわった」)

〈講評〉

かっちゃんの言葉に出てくる「勇気」という言葉に気が付き、その意味を自分自身に問いかけています。答えを求めながら読み進めていくということも、本の大切な読み方の一つです。本を通して自分なりの解答をみいだすことができました。また、「私がくだったら」「私だったら」と、登場人物に自分を重ねて考えています。

遠野に住む咲岐さんが、遠野を舞台にしたこの本を読んだことも一つの出会いです。ここで考えた勇気を胸に、中学校でも多くの出会いをもってください。

みんなで生きるために

宮古市立山口小学校 二年

箱石 このみ

車にひかれて死んでしまったタヌキやキツネ。時々、国道で見かけることがある。なぜそんなことになったんだろう。道ばたにたおれている動物の行こうとした方向には山があった。もしかして友だちに会いに行こうとしたのかな。それともえさをとりに行こうとしたのかも。何だか心がしめつけられた。

ロードキルが原因で死んでしまう動物は、高速道路だけではならない車。でも、動物たちから見れば、目玉がギラギラ光るかいぶつでしかないんだろう。道路だって、わたしたちにはひつようだけど、動物たちにとっては自分たちのすみかを分だんしてしまう「見えないかべ」みたいなものだと思う。メスのモモンガの「ジジジ」という鳴き声は、わたしたち人間に「たすけて」と話しかけているように聞こえた。

そのためにできたのが動物せん用の道。オーバーパスやアンダーパス、形や大きさも色色でおもしろい。外国にあるカニせん用のオーバーパスは、カニが歩きやすいようあ

みのようなもので作られている。ぞうがつかうアンダーパスは、大がたトラックがとおれるぐらい大きいし、モモンガせん用の道は、とんでいどうするから柱だけ。どれも動物たちが生活の中で自ぜんにすることを生かしたつくりになっている。

でも、キムさんは「これは一時的なひなんで、きゆうきゆうしせつだ」と言っている。自ぜんは長い年月をかけてできたもの。そして、この地きゆうにすむ生き物みんなのもの。どんなに人間がすばらしいちえをもっている、自分のことしか考えられないなら、自分かっただし、あのモモンガたちにもっとしかられるだろう。わたしも、時々、シカやモモンガの目になって、自分をかこむものを見ていきたい。ここでいっしょに生きるために。

（図書名『ひとがつくつたどうぶつのだ』）

〈講評〉

「なぜそんなことになったんだろう」と、出来事の原因や理由について考えをめぐらせていることで好南さんの心は広がり、深まりをもったいったのだと思います。また、好南さんは、人間の目線と動物の目線のそれぞれに立つて考えていますね。鳴き声の「ジジジ」が「たすけて」と読み取ることができたのも、そうした立場の置き換えをしたからだと思えます。絵本の最後にのっている筆者の言葉まで読み、紙面を存分に使って自分の考えを述べていてすばらしいと思いました。

文字で表すつて、むずかしい

軽米町立曙山小学校 三年

古 館 陽 和

「先生、感想文書けません。」

この本の題名を見た時、わたしは、思わず心の中で、小学生の気持ちを代弁していると、つっこみを入れてしまいました。なぜそう思ったかという点も友だちも感想文を長期休みの大仕事と言うし、わたし自身も、気持ちを文にすることになやみ、何度も書きなおしをして仕上げるので、すごく時間がかかり、感想文が苦手な小学生は、多いだろうなと思ったからです。

この本の主人公は、みずかという女の子です。みずかもわたしと同じで、本を読むことは大スキです。しかし、感じたことを言葉にできず、感想文が書けません。先生に感想文を書いてくるように言われたみずかは、感想文を書きたくなるようなお話を自分で作ると、友だちのあかねさんと本を作りはじめました。わたしは、みずかの行動にびつくりしました。わたしは、本を決めて、何度も読み返して、家族と感想を言い合つて文にします。読んだものの、感想を言葉にしにくかったり、多くの感想を持ってない本も中にはあるけれど、はじめから、感想文を書きたいと思う本を自分で、作ろうと思ったことはありません。

みずかが、あかねさんと作つたお話は、あかねお姉ちゃんが、弟のタクちゃんをいろいろなピンチからすくうために、がんばるお話でした。ねこのしっぽにかみついたり、ミニトマトを百こもぎとつてしまつたり、次から次へとつかいしていくので、とてもスピード感があつて、ハラハラ、ドキドキが止まりません。わたしは、ふ

だんの生活の中から想ぞうしてお話を作るみずかとあかねさんは、発想が自由でうらやましくなりました。

みずかは、自分で作つた本で、感想文を書き、クラスで発表し、友だちからはく手をもらいました。そして、二人が作つた本は、クラスの本だになかま入りし、全員が、読むようになったのです。わたしは、二人のお話が、クラスの友だちからこうひょうだつたのは、さいごの大ダコからタクちゃんをすくう場面で、クラスの友だちも登場したので、自分が主人公になった気分、うれしかったり、楽しかったりしたからではないかと思ひます。

わたしは、この本を読みおえて、もしこの主人公が自分だったらと、お話の中に入って読んだり、本の中の自分を自分の生活におきかえてみたりして、考えながら読書すると、楽しさがばいになるのかなと感じました。

また、気持ちを文字にすることは、かんたんなことではないけれど、みずかの本や感想文のように、いろんな人ときょうゆうしてえられる、よろこびや楽しみもあることがわかりました。みずかの本のぞくへんは、わたしも気になりましたが、じつさいには読むことができないので、わたしもみずかとあかねさんを見習つてお話を考へてみようと思ひます。

（図書名「先生、感想文、書けません！」）

〈講 評〉

陽和さんの文章には、読んだ人をひきつける魅力がいくつもあります。その一つは、言葉の使い方です。「小学生の気持ちを代弁している」とか「ハラハラ、ドキドキが止まりません。」とか、本を読んでいる時の陽和さんの気持ちがストレートに伝わってきます。そして、お話を通して自分が分かつたことや考えたことを、自分の言葉できちんとまとめていくところが、これからは、ぜひ読んだり書いたりすることを楽しんでほしいと思います。

災害と共に生きるために

宮古市立田老第一小学校 五年

山内 颯 我

二学期の総合的な学習で、僕達は地域の過去を知ることによって、東日本大震災について各自が調べ、発表するという活動をした。そんなバックグラウンドが、僕にこの本を手にとらせた。そこで、僕は信じたくない現実が、こんなにも多くあったということを目の当たりにした。しかし、磯田先生は言う。実際に起きた事実の重みに学び、転ばぬ先の杖としよう、と。僕は磯田先生から提示されたミッションを胸にページをめくった。

その中で、今の僕が記憶に留めなければならないのは、やはり津波についてだ。僕の住む地域は、歴史的に何度も津波に襲われていることは知っていた。しかし、自分の思っている以上、はるか昔から繰り返されている災害であることに驚かされた。今、科学技術が進歩し、ある程度の予測もできるようになってきつつあるが、現在、使われている緊急地震速報も、揺れ始める数秒前に情報が届くというのが精いっぱいの状態だ。

だからこそ、僕等が目指さなければならないのは、減災できるよ
う備えておくことだ。避難用バッグ等を準備することはもちろんだが、普段の自分の生活環境や生活習慣について振り返り、この場所なら、この時間なら、といった様々な想定で、適切だと思える行動をシミュレーションしておくことが大切だということだ。これなら、なんの準備もいらない。いつでも誰でも簡単にできる。時に、友達と遊んでいるときに、そんな話をふってみるのもいいと思う。そうすることで、自助的な心構えができるし、何より「津波でんでん

んこ」という教えに沿えると思う。

次に僕の心に刺さってきたのは噴火だ。僕の住む地域では縁遠いとも言える災害だ。でも、岩手は温泉も多いということから、火山に対する災害の知識は持つていなければならないと思った。僕の一番の驚きは、火山灰はガラス片のようなものが混じっているということ。時にそれは高温なのでマスクやゴーグルは必須アイテムだということ。また、興味深いと思ったのは、巨大地震、津波の発生は噴火との連動性があるという事だ。やはり、大地はつながっているという証拠だと僕は思った。

そして、今も全世界が苦しむパンデミックだ。磯田先生は、世界の一体化で感染症は広がったという。幕末日本とコレラ感染が実例だし、それを受け多くの国が今、入国制限している。一方で磯田先生は文化で感染抑制もできると言う。日本は、室内では靴を脱ぐとか、水道水は塩素の殺菌水だとか、清潔を好む文化がある。これは、このコロナ禍に古くも新しい常識を生むヒントになる気がする。

災害は、人知を超える。自然の脅威に人はあらがえない。だからこそ、地域で語り伝えられる言い伝えを自分も引き継ぎつつ、文化も大切にし、とつさの判断を適切にできるよう、今後も過去の災害を学んでいきたい。

（図書名「マンガでわかる災害の日本史」）
〈講評〉

この本は、災害などの「信じたくない現実」が多数載っています。それでも、「磯田先生から提示されたミッションを胸にページをめくった」と書いたように、颯我さんは、知りたい思いをもって読み進んでいます。この本は情報量が豊富で多岐にわたっているのですが、自分の心に残るものをつまみ切り取っています。そして、切り取った情報を焦点化させて段落をつくり、結論をまとめていくことに感心します。昨今のコロナ禍を取り上げ、自分の考えを述べた点も力強さがありました。

しあわせな気もち

北上市立黒沢尻東小学校 一年

青木 そうしろう

どんなまほうだろうと気になって、わくわくしながらよみました。

この本は、きつ手やじゅうしょがなくとも手がみをとどけてくれるポストのはなしです。なんと天ごくのおばあちゃんにもどきました。けんとくんはおばあちゃんの大じな木をおつてしまったのに、あやまらないままあえなくなつてしまったのです。あやまりたくて一生けんめい手がみをかいて出したら、おれた木に花がさいてふっかつしたので、おばあちゃんがよろこんでいるようでした。

そのあとまほうのポストはきえてしまい、けんとくんはポストがうごいたとかがえました。でもぼくは、おばあちゃんけんとくんのごめんなさいをまっていたから、けんとくんだけにまほうのポストが見えたのかもしれないと思いました。天ごくにいけばそのくらいならできそうだからです。

ぼくはごめんなさいがうまくいえなくて、あやまるまでたまにじかんがかります。早くいえたらいいのにと、いつもあとでざんねんにおもいます。でもそのときはくるし

くて、うまくあやまることができないのです。

そこで、どうしてもいえないときは、けんとくんのよう
に手がみでつたえることもできるとわかりました。でも、
まほうのポストは見つからないし、もししんでしまったら
手がみをよんでももらえないとおもうと、なみだが出てきま
す。そうならないように、やつぱりそのときに早くあやま
るようにこれからがんばります。

また、あかるいしないようはしあわせな気もちになるし、
なんどもよめるので手がみのやりとりはすきです。なかな
かあえない、とおくのおばあちゃんたちによく手がみを出
します。いいほうこくではなくても、まほうのポストから
ではなくても、しあわせな気もちになる手がみをとどけた
いです。

〔図書名『まほうのゆうびんポスト』〕

〈講評〉

創志朗ちしろうさんは、まほうのゆうびんポストが消えてしまうというこ
の本の中の「一番大きな変化」に着目して感想を述べていますね。「お
ばあちゃんからだけ返事がなく、かわりに花が咲いたこと」は他の
出来事とも大きく違うところだと気がついたからでしょう。そして、
郵便は心を届ける手段だと考え、「しあわせな気もちになる手がみ
をとどけたい」としめくくったのですね。題名にもそれが表れてい
てすばらしいと感じました。

なりたいわたしになるために

洋野町立中野小学校 四年

粒 來 明 莉

「どっちでもいいよ。」

わたしもよく言う言葉だ。はるもいつもまよってしまふ子なのかな
 と思い、読み進めた。

わたしは、今では、わりとすぐに、「こっちがいい。」と言うこと
 ができるようになったが、四年生に上がったころは、自分の意見を
 はっきり言うことが、なかなかできなかった。そう太は、はるに

「どうしていつもまよったりどうでもいいみたいな言い方するん
 だ。」

と言った。わたしも、まよってしまふと、相手のことや言ってしまった
 後のことを考えてしまい、思っていることを言っていないのかわか
 らなくなってしまうことがあった。休み時間も友達からさそわれず、
 教室で一人で本を読んでいたこともある。その日の帰り道、姉にそ
 のことを話していると、何となく自分がみじめな気持ちになり、な
 みだがポロポロとこぼれてきたことを思い出した。その時、姉には、
 「一人でいることが好きなんだと思われているかもしれないよ。友
 達と遊びたかったら、自分からさそってみたら。」

と言われた。それまでのわたしは、自分からさそったことはなかつ
 た。そんなわたしにとって、友達をさそうことは、とてもゆう気の
 いることだった。ことわられたらどうしようと不安な気持ちになっ
 ていると、姉は、

「さそってことわられたら、図書室でいっしょに本を読もうよ。」
 と言ってくれた。その言葉がわたしの背中をおしてくれた。ゆう気

を持ち、自分から友達をさそってみると、自然と遊ぶことができた。
 だまっていたても、自分の思っていることは伝わらないし、「どっち
 でもいい。」と言うと、どうでもいいと思っているように見られて
 しまう。はるは、ダンスと出会って少しずつ変わっていった。わた
 しは、はるが否とぶつかって初めは、自分の考えが言えずに前のよ
 うなはるにもどりそうになったけれどやっばり否の目を見て思っ
 いたことをはっきり言えた場面が好きだ。わたしもはるみたいに交
 わりたいと思った。

わたしの姉は児童会長をしている。全校の前で話をする姉はかつ
 こ良くてあこがれる。わたしも姉のようになりたくて、学級会など
 で自分の意見を言うことからはじめた。学級委員にも立こうほ
 し、代表委員会に参加した。そこでは、学級や自分の意見を発表し
 なければならぬのでとてもきんちようしたが、今までの自分とは
 ちがう成長した自分に会えたような気がして気持ちが良かった。

わたしは、六年生になったら姉のような児童会長になりたいと心
 の奥で思っている。そのために、三学期、児童会に立こうほしよ
 うと決めた。自分はどうなりたいかを考え、なりたいわたしになるた
 めに、これからもゆう気を持って少しずつ行動していきたい。

（図書名「どっちでもいい子」）

〈講評〉

この本との出会いを大切にしていると感じる文章でした。「はる」に起こつ
 た出来事と「はる」の成長が、明莉さん自身の経験にびつたりと重なった
 のですね。この本を読みながらその経験を思い出し、四年生になってから
 の自分の成長をあらためて振り返ることができて、よかったですね。明莉
 さんの力強い言葉からは、読んでいる私も勇気をもらった気がします。こ
 れからも、「はる」やお姉さんに負けないくらい、なりたい自分を目指して
 頑張ってほしいと思います。

トモが教えてくれたこと

宮古市立田老第一小学校 五年

山崎夢羽

サッカーと裁縫、トモにとっては大好きなこと。どちらかを選ぶなんてできないほどだ。

トモは最初、裁縫を優先した。それは、リラの母への思いを何より大切にしたいと考えたからだろう。リラは母の形見とも言えるワンピースをサイズアウトしているにも関わらず着続けている。しかも、自分の体が服に合うよう姿勢や食事に気をつけているというのだ。驚くのは、背伸びすることさえ注意しているらしい。そんな彼女を知った時、トモは自分と家族との幸せな時間を振り返っただろうし、だからこそリラの母への思いを大切にしたいと考えただろう。そしてきつとリラの母が望んでいたリラの成長が自由であることも叶えてあげたい、いや自分が叶えるんだ、そんなふうに考えたからだと思う。

トモが裁縫をする姿から見えたものがある。それは、じいちゃんやばあちゃんの仕事に対する姿勢がそのまま受け継がれているということだ。トモはワンピースを直しながら、ばあちゃんの教えである「預かった衣類は、持ち主の衣類を大切にすることを預かっているのだ」ということを確実に実行しているし、じいちゃんの教えの「生地の良いさを生かす」ということだ。きつと彼の一針一針は、ばあちゃんと同じ着る人への思いを込めてものだから、一心に作業する姿はじいちゃんのアイロンをかける時のかっこいい顔つきそのものだっただろう。それは、これまでトモが二人と過ごしてきた時間の中で彼の心と体に染みついたものだと思う。

そうして三週間もサッカーの練習に参加しなかったトモだが、それでも試合は見に行っている。私なら絶対行かない。なぜなら、これまで一生懸命に練習してきたチームメイトに申し訳なくて心が痛い思いをするからだ。でも、トモはそんな状況も想定しつつも逃げることはしなかった。それは、自分で選んだことだから、辛くても目を背けるべきではないという強い思いがあったのだろう。現実をきちんと見るべきが、自分への責任を果たすことだと思っていたと思う。また、今のチームの状態を知ること、自分のやることは何かを考えるための行動だったとも考えられる。生半可ではないサッカーへの愛を感じた。

トモのばあちゃんが言う「真摯に続けていけばやるべきことは分かる」という言葉とじいちゃんの「どちらかを選ばなくていい。好きなことは全部やればいい」という言葉。この二つはどこか似ている気がする。没頭できることがあることは、とても幸せなことなんだと私は感じた。そして、それは周囲からどう思われるかなんて問題じゃなく、夢中になれる自分にもっと自信を持つていいのだということが分かった。それはあの大谷翔平さんの二刀流にも通じるものがあると思う。そして夢中で進む姿は、周りの人達も幸せにするんだということをもトモが私に教えてくれた。

（図書名「ライラックのワンピース」）

〈講評〉

本に書かれている事柄の順序を追いながら、そこで感じたことや考えたことをていねいに書いています。主人公が、周囲の人々の言葉や行動によって心情を変化させていくことに沿って、夢羽さんが深く考えていることが伝わります。自分のやりたいことは何か、好きなことは何か、何かを選ぶなければならぬときどうするかということ、真剣に考えていく文章の構成には、ぐいぐい引き込まれました。

やさしさは広がっていくんだね

宮古市立田老第一小学校 二年

千葉 美 姫

お父さんとお母さんのおつかいの帰りに見つけたカステラやさん。いくらおいしくないカステラやさんだからって、作り方を教えてあげるなんてありえない。それじゃあナナの家のカステラが売れなくなっちゃうじゃないの。わたしはそう思いました。

でも、なぜナナはおいしいカステラの作り方を教えたのか考えながら、もう一どページをめくってみました。すると分かったことがあります。それは、ナナの心がやさしいということです。きつねの子たちがカステラのやたいを出したのは、けがをしたお母さんをなすため。お金がなければちりょうはできません。そのことを知ったナナは、きつねの子たちがかわいそうになったんだと思います。きつねと、自分のことのように考えたのだと思います。もし、わたしのお母さんが大きなけがをしてしまったら、お母さんを何とかたすけたいと思います。それに、入いんとかしてしまつたら家にもいなくなるのでとてもさびしいです。毎日のおいしい料理も食べられなくなるので、本當につらいと思います。きつとナナもそんなふうに考えたんだと思

ます。

しあげの「きつね火のオーブン」は、ナナがうつとりと見とれてしまうきれいな火だったとありました。ナナのやさしさと、きつねたちの心のあたたかさが一つになったもの、たぶん、そのきつね火を見た人もしあわせな気もちになるものなんだろうなと思いました。

ナナのやさしさは、たくさんの人たちのえがおをつくることができました。やさしい気もちって、どんどん広がってさいごに自分にかえってくる。それはまるで花をそだてるみたいだと思いました。やさしさのタネをまくとえがおの花がさく。やがて、たくさんタネがかえってくる、そんなかんじがします。これからわたしもやさしさのタネまきをして、ナナにまけない大きな花をさかせたいです。

〔図書名「ちいさなやたいのカステラやさん」〕

〈講評〉

自分の考えを語ることから始まるこの文章に、あつという間に引き込まれてしまいました。「でも、なぜ…」と自分の考えを確かめようと読み進めていく様子も「もう一どページをめくってみました」という表現から伝わってきます。また、主人公の立場になって気持ちを想像することで、お話の理解が深まっていると感じました。自分の考えを「まるで花をそだてるみたい」と、比喩（たとえ）を使って表現していて、よく伝わってきましたよ。

新しい自分になるために

宮古市立田老第一小学校 三年

澤口 紗幸

どっちでもいい——そんな答えばかりをしてみよう主人公のはる。もしわたしの目の前にはるがいたとしたら、わたしは怒ってしまふそうだ。なぜなら、その人の本音が分からないから。それに中途はんば返事で、かえってこっちがなやんでしまふ。きつとわたしは、あなたの意志はないの、本当にそれでいいの、はつきり言うてよなんて、責め立ててしまふ気がする。

でも、何度か読み返すうちに、その答えのわけが見えてきた。はるは決してどうでもいいわけじゃなく、両方の良さが分かっているから迷っているんだという事。そして、考えすぎって思うほどに考えている。その間に時間はたつてしまつて、質問してきた相手をまたせてしまつていくというあせりもあつて、

「どっちでもいい。」
つていう答えになつてしまつていくんだつて気づいた。

そんなはるを変えたのは、ヒップホップとの出会い。本当に心からやりたいという思いと、音楽に合わせて体を動かすという心地よさが、はるに自信をくれた。それは、きつと自分の意志を通してくれた、お母さんや、応えんしてくれただお姉ちゃんに対して、中途はんばな取り組み方じゃ申しわけないという気持ちがあつただろう。また、ダンスを見てくれる人にも楽しんでほしいという、はる自身のやさしさが、ダンスレッスン以外の時間も練習をさせたと思う。

ほかに、はるを変えたものがある。それは玲奈のそんざいだ。玲奈は、はるとは正反対と言えほど性格がちがう。自分の意見を

しかり言えるし、だれかにさそわれなくても平気だ。そんな玲奈と友達になれたこと、そしてその玲奈と本音でのおしゃべりができたことも大きいと思う。

そして、ずっとそばで支えてくれた颯太。「世話がかかる。」と言いながらも、はるのこを見放したりはしない。いつもやさしくしてくれている。だから、はるは一人ぼっちになることがなかつたし、つらくて学校を休むなんてことにはならなかつたんだと思う。何より颯太ははるの「どっちでもいい」ぐせの理由を一番さいしょに見ぬいた人物。まじめすぎと考えすぎはつながっているという発見をした。颯太のその言葉を初めて聞いたとき、わたしは思わず「そういうことだったのか」とつぶやいてしまつた。それと同時に、どっちでもいいっていう返事にいらだつてしまつた自分を、ちよつとはずかしいと思つた。そして、わたしは心の中ではるに「ごめん。」つて言つた。

はるは、きつと今日も新しい自分になつていく。わたしも颯太や玲奈、そしてはるに教えてもらった事をむねに、新しい自分になつていきたい。自分の思いを伝えながらも、相手の思いをその言葉から考えられる自分に。

（図書名）「どっちでもいい子」

〈講評〉

初めは、「どっちでもいい。」を言つてしまふ主人公「はる」を怒つてしまふと思つていた紗幸さん。でも、本を何度も読み返し、「はる」の言葉の理由を知つたり、「はる」が変わつたきっかけになつたものを見つけたりすることができました。「はる」のことを、このように考えることができると紗幸さんは、きつと紗幸さんの周りの人に対しても、相手の思いを考えてあげることができると思ひます。新しい自分へ、一歩前進したのではないのでしょうか。

殺処分ゼロへの道

久慈市立宇部小学校 五年

滝澤 啓 光

「動物を捨てるのは犯罪です」

ぼくは、動物が苦手だったから動物関係の本はあまり読むことがなかった。この本を読んでぼくは、動物を捨てるのが犯罪ということを知った。

北里大学獣医学部の太田快作は、自分の生活費をけずってまでも救いが必要な犬を保護してしまう犬バカだ。その上、なぜかそういう動物を引き寄せてしまう。「どういうわけか出会ってしまうタイプ」の人間だ。彼は、大学非公認のサークル「犬部」の創設者で初代代表もしていた。彼のアパートは常に、保護された動物が何頭も生活していた。サークルにも迷子の動物や、世話をできなくなつたので引き取って欲しい等の理由で連れてこられた動物がたくさんいた。部員達も、そういう動物を自分のアパートで何頭も世話をしていた。新しい飼い主を探すために譲渡会も開いていたが、すべての動物に飼い主が見つかるわけではないし、飼い主が見つかって卒業する動物がいてもすぐに次の動物が引き取られるというくり返しだった。犬部は、自分達が保護しなければ最悪の結末になるかも知れない、そんなことには絶対にさせないという強い気持ちで世話をしていたのだろう。

最悪の結末。それは殺処分されること。日本では、平成元年度には年間で百万頭以上の動物が殺処分されていた。令和元年度には三十分の一まで減ってはいるが、それでも三万三千頭もいる。この数字は、ぼくが住んでいる市の人口とほぼ同じだったのでとてもお

どろいたし、何かいやな気持ちになった。

なぜ、人は簡単に動物を捨ててしまうのだろうか。ペットブームで写真や動画をネットにアップして「いいね」をもらいたいただけのためにお店で動物を買う。それがすんだらやっぱり最後まで飼う自信がないので引き取って欲しいとお店に返しにくる人達が増えていること。お店で売られている動物は、産まれた動物全部ではなく、セリで仕入れられた動物だけだということを以前テレビ番組でみたお母さんが言っていた。利益のために動物を飼っているブリーダーの人達が、利益のみこみのない動物を最後まで責任を持って面倒をみるとはとも思えない。そういう不幸になるかも知れない動物を一頭でも多く救おうとしている犬部の活動はすごいと思った。と同時に、犬部の活動を美談として語るだけではいけないのではないかと思った。

不幸になる動物を減らすために犬部や動物愛護団体はがんばっている。殺処分ゼロを達成した自治体もでてきている。でもそれは、愛護団体等が引き取って殺処分をのがれているだけで、飼い主がいらない事には変わりはない。殺処分ゼロを喜ぶだけではなく、動物の数が必要以上に増えないように工夫する制度等をつくる事も、大切なのではないかと思った。

「動物を捨てるのは犯罪です」

（図書名「北里大学獣医学部 犬部！」）

〈講評〉

これまで読む機会のなかった分野の本を開いたことに、拍手を送ります。ジャンルを広げていくことも、大事な読書体験です。感想文の中に、本に書かれている統計的な数字を入れたことにより、より事実性が出てきました。またそこで、すかさず、自分の住む市の人口を持ち出して比べることにより、その数に対する啓光さんの思いが伝わります。本から得た事実には、憂うべき現実が多かったのですが、今の世の中を考えていこうとする、高学年らしい読み方と書き方でした。

審査を終えて

第七十六回冬休み良書推薦運動読書感想文コンクールには、県内の小学校三十一校から百点（低学年五十三点、中学年二十七点、高学年二十点）の作品が寄せられました。コロナ禍の中の作品応募、ありがとうございます。どの作品にも本との素敵な出会いが書かれていました。学校賞は、優秀な作品を応募してくださった田老第一小学校です。学級賞も、田老第一小学校の五年生です。田老第一小学校の皆さんの感想文は、一人ひとりの個性が大切にされた素晴らしいものでした。ご指導にも感謝申し上げます。

以下、今回の審査で話題になったことをお伝えします。

【低学年】

一、二年生は、題材や主題と自分の経験とを重ね合わせて書いている作品が多く、共感しながら読んだことが伝わりました。ただ、主題に結びつけて書いているのですが、自分の経験や思いがあふれていて、本の内容から離れすぎてしまっている作品や、共感の視点が類似した作品がありました。

その中でも、その本でしか書けない感想文だと思わせる作品、本の面白さを十分に楽しんだことが伝わる作品、低学年なりに主題にせまる構成で書かれた作品は優れていると感じました。

また、科学読み物を想像豊かに読んだ作品も多く、日々の生活環境や体験が個性的である作品は特に印象に残りました。書き出しは、回をおうごとに工夫されてきていて、楽しみながら読み始めることができました。

【中学年】

三、四年生の作品は、同じ本を読んでも、共感する場面やとらえ方が様々でした。重ねている体験が中学年らしくて読みごたえがありました。思ったことの根拠まで書かれていれば、さらに良かったと思える作品もありました。

本を通して変容していく過程が分かる作品や、感想文を書きながら新たな決意をもったことが伝わる作品などは優れていると感じました。

また、粗筋をコンパクトにまとめて位置付け、構成がすつき

りしている作品もありました。感想文を読んだ人が本の良さも味わえるような表現と構成が優れた作品でした。

【高学年】

高学年の作品応募は、二十点でした。そのうち、六年生の応募は五点と少なかったのは残念でなりません。ただ、厚みのある作品を読み切り、感想文につなげていくことは簡単なことではありません。今回応募した皆さんの作品一点一点の努力を感じながら審査いたしました。

その中でも、自分の生き方を主人公に学び書きまとめている作品やキーワードを繰り返しながら自分の考えを深めていく構成の作品は優れていると感じました。引用の仕方がうまい作品もあり、高学年らしさを感じました。

本を通して新しい情報を得て、そこから新たな価値を見出すこと。そして、それを自分なりの構成で文章にすること。その行為の一つ一つが感想文を書く醍醐味であると思います。これからも本を味わう一つの方法として、感想文を書き続けてほしいと思います。

【終わりに 文末表現について】

審査していて気になるのは文末表現です。やはり文末に敬体表現と常体表現が交じっていると違和感を感じます。国語の学習では、どちらかに揃えるように指導しています。低学年によくあるのですが、驚きや主人公に対しての呼びかけだけが常体で書かれていることがあります。学びの途中ではありますが、やはり気を付けて欲しいところです。心の大きな動きを常体で表したいのであれば、かぎかっこ（「」）をつけることをおすすめします。

もう一つは文末の感嘆符（！）や疑問符（？）などです。今は表現方法も多様化してきてはいませんが、感想文を書く時はどうでしょう。表現したい思いは伝わりますので、原稿用紙に書く時は、句点（。）に統一した指導をお願いします。

今回の応募作品もお待ちしております。

審査員 畠山 明美

たくさんのおうぼ
ご応募、ありがとう。
次も、お友だちをさそってトライしてね。



次回予告

令和4年度夏休み良書推薦運動 第77回読書感想文コンクール募集要項

- 1 主催 岩手県良書推進協議会
- 2 協賛 岩手県学校生活協同組合
- 3 後援 ・岩手県小学校長会 ・岩手県学校図書館協議会
・(一社)岩手県PTA連合会
- 4 課題図書 2022年「夏休み良書推薦運動」
学年・学団対象24冊・学年共通6冊 計30冊 (5月下旬案内開始予定)
※上記以外の図書、学団(低・中・高)ちがいの場合は、審査の対象となりません。
- 5 用紙・字数 ・1・2年生は400字詰め原稿用紙2枚以内
・3～6年生は400字詰め原稿用紙3枚以内
・1行目に題名、2行目に学校名・学年・氏名、3行目から本文
鉛筆は、B以上の濃さのもので書く。
・課題図書名は1枚目の枠外に縦書きで明記
- 6 応募作品 一人1点 (県下小学校児童)
応募作品は、オリジナルで自筆、未発表の物に限ります。
(他のコンクールとの二重応募は認めません)
・応募作品は、理由を問わず返却しません。(必要な場合はコピーをお取り下さい)
・応募作品の著作権、版權は主催者に帰属します。ただし、本人および在籍学校内での利用は妨げません。
・応募要項・課題図書名・前回までの上位入賞作品は学校生協ホームページで確認できます。
・応募された方の氏名・学校名・学年・感想文の題名・対象図書名および作品、表彰式の様子は、主催者および岩手県学校生活協同組合のホームページ、刊行物、取材報道等で公表することがあります。
- 7 応募締切 2022年9月2日(金) 当日消印有効
- 8 応募先 〒020-0691 岩手県滝沢市土沢220-5
岩手県学校生活協同組合 企画課 学用品内
「読書感想文コンクール係」
TEL 019(687)2246 FAX 019(687)2240
- 9 賞 最優秀賞・岩手県小学校長会長賞・岩手県学校図書館協議会長賞・
岩手県PTA連合会長賞・優秀賞・入選・佳作・努力賞・
学校賞・学級賞

